

第3回常総市「道の駅」基本計画策定検討会議 議事要旨

平成30年11月22日に開催した第3回常総市「道の駅」基本計画策定検討会議での、主なご意見等を以下に示します。

- 年間の利用客数の見込みなどについては、交通量からだけではなく、週末の観光型と平日の地元の方の利用と両方を検討してほしい。
- 直売所や物販部分の面積について、市内のものだけで集めることができるのか懸念されるが、本事業の目的からも、計画段階から小さくはよくないので、引き続き検討が必要と考える。
- 本事業は、民間との連携も重要となることから、市だけで計画を進めず、事業協力者である民間企業と協議・検討を行い進めることが重要と考える。
- 道の駅の入り口については、わかりやすい動線を設けることが必要で、例えば「道の駅にのみや」では、100m手前から車線をつくり入り口としているので参考としてほしい。
- 道の駅と隣接する民間集客施設と相乗効果を図るという計画だが、まだ民間側の計画がわからない状況となる。しかし、民間は利益を最大限追求してくる可能性もあるので、競合しないように現段階からよく協議・検討をしてほしい。
- 将来的には自動運転の時代もくるため、地元の交通機関と連携して、公共交通も含んだ拠点づくりとしても検討してほしい。
- 圏央道からも目立つよう、道の駅の象徴的なシンボルタワーのようなものを、防災とタイアップしたような形で設置をすることもよいと考える。
- 常総市には子供を遊ばせる公園も少ないので、道の駅のあるエリアと隣接する公園に特色を出し道の駅と連携を図っていくことは面白いと考える。
- 今後は、施設内容だけでなく、地元農家がどのくらい手をあげるのか、また関われるのかもよく検討してほしい。
- 施設の構成として、どのようにしたら売り上げが上がるのかというところも意識しながら検討してほしい。
- 道の駅のような集客施設を作る場合は、企業やお客様のニーズ変化を的確に捉えながら変えていく必要があるので、5年や10年ごとにリフォームなども想定して維持管理をしていく必要があると考える。
- 地元の商品売ることは大切だが、それに偏り過ぎてしまうと、品揃えなどの点でお客様が離れてしまう可能性があるのでよく検討してほしい。
- まちづくり事業であるアグリサイエンスバレー構想とその中核を担う道の駅事業は、常総市の将来のための事業であると考えてるので、市民や議会の理解も得ながら進めてほしい。